

**朗読部門 準決勝課題**

自分の原稿に続けて、下の3つの課題の中から一つ選び、傍線部のみを朗読しなさい。(ルビのある部分は元の文字を読みなさい。)

課題①

黒木は今度は感心して男を見つめた。じょうご型破局的噴火の話をする、普通の宮崎人は「宮崎県の大半が焼き尽くされる」という事実だけで思考が飽和してしまい、大阪辺りのことまで考えるゆとりを無くしてしまう。「宮崎を造った火山の話」も県内向けなので、日本に与える影響とか世界に与える影響に関しては簡単にしか触れなかった。ところが、どうもこの男は噴火の影響が更に広範で深刻であることを知っているらしい。

課題②

「大丈夫ね？」

黒木は走り寄って尋ねた。

「大丈夫じゃなかとですよ。一張羅がこんなことになってしまったこげんとです」

見ると、岩切の服は背中からお尻にかけて濡れた灰土がベッタリつき、まるでペンキ塗りたてのベンチに腰掛けてしまった間抜けなサラリーマンである。ぼやく岩切をなだめながら黒木は※カリブへ向かった。

※カリブ ステーションワゴンの車名。黒木の愛車。

課題③

単に命名者が面倒ダキンボだったのかも知れないが、こと霧島に限ってはむしろ命名者の合理精神をたた讃えるべきだろう。なにしろここには火口湖と火山が密集していて、それぞれに別な名をつけると地図が字で埋まってしまうのである。

石黒 耀 作「死都日本」より  
(講談社文庫)